

2025 年 3 月

2025 年度事業計画

学校法人 冲永学園

1. 学園の現状と基本方針

冲永学園は、創立以来社会のニーズに応えるため組織の設置・改善を重ね、現在では短期大学 1・高等学校 1・中学校 1・幼稚園 2 を擁している。「礼儀・努力・誠実」を建学の精神とし、帝京大学グループとしてのメリットも生かしつつ、人格を磨き社会で役立つ実学を重視する。

2. 教育研究に係わる課題と方針

(1) 帝京短期大学

① 生活科学科

<生活科学専攻生活文化コース>

学生数減少により地域貢献活動の量自体は前年度比若干減少したものの、生活文化コースの目標である社会性の育成のために地域貢献活動やインターンシップに取り組んだ。

インターンシップについては、学生の希望業種などを踏まえて関連部署と連携して受入企業等の開拓を行い、4つの企業・法人にて新規受入が実現した。2025 年度も継続して地域貢献活動、インターンシップを通じて実践していく。

近年、インターンシップは採用活動との連動性が高まってきており、担当教員とキャリアサポートセンターが連携し、新規受入企業開拓を継続していく。地域貢献活動については、地域のイベントやボランティア活動などに参加し、地域の方々とコミュニケーションを取ることで社会性の育成と地域社会への貢献の両立を図る。

<生活科学専攻養護教諭コース・専攻科養護教諭専攻>

2024 年度は、養護教諭に求められる資質・能力・実践力の獲得に向けた体験学習を実施した。1 年次は渋谷区教育委員会との連携による一日教育参加や地域のボランティア活動への参加、2 回の野外活動を通して養護教諭の役割や求められる能力について体験的に学ぶことができた。2 年次には教育実習を通して、職務や組織の中での役割を理解することで、進路選択を明確にすることにつながった。学生の自己評価からは、これらの体験的学習を通して、誠実に物事に取り組む姿勢や、豊かな人間性を磨くことにつながっていることが示されている。

教員採用試験対策として、対策講座を 1 年次前期に設定し、全員が受講できる体制をとった。早期の実施により、学習方法の獲得や意識付けにつながっており、東京都の前倒し選考では、専攻科を含め 5 名が筆記試験の合格を果たした。

また、現在、多くの卒業生が養護教諭として活躍しており、現場で求められる能力を磨き続けるための機会として、卒業生と在校生の学習会を開催した。今年度は、卒業生2名の実践報告と救命救急の医師による特別講演を行なった。在校生にとっても卒業生との交流や実践報告から学べる貴重な機会となっている。

専攻科では様々な学外授業や実習に加え、近隣の小・中・高等学校でのボランティア活動への積極的な参加により、実践力を身につけることができている。特に、現場の体験を通して得た課題を共有し検討することが、研究活動にも活かされている。

教育課程については、これまで、高い専門性を身につけることを目標に、文部科学省の規定を上回るカリキュラムを設定してきたが、確かな学力の獲得とさらなる資質・能力の向上に向けて、カリキュラムの見直しを行った。

2025年度については、引き続き養護教諭に求められる資質・能力・実践力を磨き、教員としての豊かな人間性を育むことを目指し、教育活動の充実を図る。体験的学習を継続的に進めていく。これまでの実践から、体験的学習で得られる効果は高いことが示されており、引き続き渋谷区教育委員会や地域との連携によるボランティア活動等への積極的な参加や、学外での活動にも積極的に取り組む。学生が自身の目標に向けてより主体的に、実践的に学べるよう教育活動を推進していく。

今年度より新しいカリキュラムとなるため、より自身の進路や目標設定を明確にしていけるよう教育活動の充実を図る。また、教員採用試験対策の早期実施に加え、リカレント教育も継続的に開催していく。

専攻科では、即戦力として活躍できる高い専門性と、豊かな人間性の獲得を図る。さらに、現代的な健康課題の解決に向けた確かな研究力の育成を目指し、教育活動を推進していく。

<食物栄養専攻>

食物栄養専攻では、卒業後、栄養士の資格を活かした職種において活躍できる栄養士の養成を行うため、栄養士専門教育の他、総合演習Ⅰ・Ⅱにおいて専門教養を修得するカリキュラムを編成する。

2024年度は給食管理実習(校外実習)において、事前・事後指導の充実を図り、現場での実習を通して、学習成果を獲得することができた。2025年度も継続して、教員と実習先、教員と学生および学生間のコミュニケーションを十分にとり、学生が校外実習において、確実に学習成果を獲得できる環境をつくる。加えて、総合演習において、1年次は、専門教養の習得、2年次は栄養士として仕事に就くための心構えや知識の習得が出来るように進めていく。

就職および進学において、2024度も良好な結果が得られた。これは、キャリアサポートセンターと常に連絡をとりあい、学生との面談を通して、就職・進学をサポートした結果と考えられる。2025年度も、学生が取得した資格を活かした進路、また希望する進路に進めるように支援を行う。フードスペシャリスト資格においては、2024年度、希望者は全員合格することができた。2025年度も全員合格できるよう支援を行う。

なお、食物栄養専攻は2026年度以降の募集停止を決定しており、2025年4月の入学者が最後となるが、教育の質をしっかりと維持しつつ、最後の学生まできめ細かく丁寧な指導を実施していく。

② こども教育学科

2024年度に引き続き学生の現場対応力・実践力強化を重点課題とする。具体的対応としては、①渋谷区教育委員会の協力により区立幼稚園におけるボランティア(SAM)への参加、②帝京めぐみ幼稚園の協力を得て実施される現場実習の質量における更なる充実、③キャリアサポートセンターと連携した公務員試験および四年制大学編入試験受験ほか進路・就職指導の継続、④独自科目「専攻演習」「こども演習」等におけるSDGsを考慮した多様な学習の展開の継続などを図る。

永らく運営してきた「帝京こども教育研究会」、および2020年度より実施してきた「帝京こども教育センター研究会」の継続は、学科規模の縮小により、一つの転機を迎えている。将来的に、どのように継続運営していくかが今日の課題である。

通信課程においては、安定した学生数を維持している。規模は決して大きくないものの、少人数制、担任制など、顔が見える教育の実践が一定の社会的評価を得ていると考えられる。学生の学習意欲も高く、よき保育者育成のため通学課程と同様の丁寧な指導を続けたい。

③ ライフケア学科

<臨床検査専攻>

医療現場において、チーム医療の推進やタスク・シフト/シェアによる業務拡大に伴い、臨床検査技師は「検査」の専門知識や技術を持つ職種として重要視されている。そのため、臨床検査のスペシャリストになるよう、人間性や知識・技能の向上を目指す育成を行う。

全学年を対象に、基本となるコミュニケーション能力を向上させるために、日常的な規則・挨拶の励行を徹底し、協調性を身につけさせる。さらに、疾患および病態の習得、各職種の業務内容の理解、病院医療安全管理の重要性について認識させ、医療人としての自覚を持たせるよう教育する。

2022年度から新カリキュラムが導入され、殆どの学生が対象となる。引き続き初期の指導を強化し、学習習慣の定着を目指す。専任担当の科目においては、小テストを実施し学習状況を把握し、補習等で学力不足を補う。

1年生は前期から基礎実習を行い、器具の取り扱いなどの基本的な技術・知識を身に付け、専門実習へのスムーズな導入に役立たせる。また、学習能力が低い学生には、補講や学習指導を強化する。

2年生は、専門科目・実習において専門知識の習得・理解力を深め、臨地実習および国家試験に向けての重要な準備期間として指導を行う。

3年生においては、臨地実習での現場経験を学習や今後の就活に生かせるようにし、また早期からの国家試験対策を行い、資格取得を目指し学習指導を徹底する。

就活においては、東京都職員や公立病院、大学病院、総合病院などに高い就職率を誇っており、毎年ほぼ 100%の就職率を達成している。さらに、経験豊富な教員による指導や卒業生による体験授業や就職情報、施設情報の提供を通じて、学生が適切な就職先を選べるようにサポートする。

<専攻科臨床工学専攻>

臨床工学専攻は、最終目的である臨床工学技士の国家試験の合格を目指している。臨床工学技士は、医学系、工学系の専門知識・技術を修得し、臨床の場において生命維持管理装置の操作および保守点検を行うことを業とする者で、医療機器のスペシャリストである。現代の医療は医療機器なくして成立はしない。今後さらに AI 搭載の医療機器や医療用ロボットの導入が盛んに行われることが予想され、臨床工学技士の期待は大きいものである。

授業は、養成所指定規則を基に充実した講義要項で構成され、臨床経験が豊富な教員が多い。指導の一環としてチューター制度による学生指導は、学習指導から就職相談まで幅広く、きめ細かい指導を行っており、その情報は学生カルテ等により各教員に共有される。今年度は、国試対策としての医療機器系、情報システム系の総合演習を 30 コマ実施し、各領域での理解度を深めた。また、臨床実習では実際に臨床の場を見聞することで、学生は、医療に携わるものとしての「心構え」や「臨床業務」など多くの情報を習得できたものであり、その後の学生による臨床実習報告会では、知識不足や医療・医学に従事する事での「意識の変化」や「気づき」等が報告され、多くの学生にその成長がみられた。

2025 年度から臨床工学技士養成所指定規則改正による新カリキュラム（8 単位増加）が開始される。それに伴い国試出題基準が変更されることになる。引き続き、臨床工学専攻では、臨床工学技士の国家資格を確実に取得できるよう、より充実した指導が必要となる。授業では、新たに「チーム医療」や「患者心理、臨床倫理」、「臨床支援技術」等が組み込まれ、より医療に密着した科目を教授することになる。

臨床工学専攻では、ここ数年、定員割れが続いている。2025 年度は、提携校からの学生派遣がなくなり、定員割れはさらに進むことが予想される。今年度の対応としては、医工学系大学への本学紹介や臨床工学技士の認知度向上を目的に臨床工学技士会等の団体と共に活動することを考えている。次年度は養成課程と並行して学生確保に努める。

<柔道整復専攻>

柔道整復師に求められる役割や社会的ニーズは、時代の変化とともに常に進化している。こうした変化に対応するために、本学では「実学」の理念に基づき、単に知識と技術を習得するだけでなく、治療に対する患者の理解や納得を促し、心身の回復を支えることができる「治せる柔道整復師」の育成を目指して教育を実施している。

まず、1 年次においては、柔道整復師としての基礎学力を構築するとともに、職業としての具体的な役割や仕事内容に対する理解を深めることで、学生の学びに対する意欲を高め、資格取得への意識を醸成することを目的としている。

2年次からは、実際の治療現場を想定した実技や実習を中心に授業を展開し、より実践的な知識と技術の習得を目指す。さらに、各実技授業においては学生自らが患者モデルとしての体験を行い、治療期間中に患者が感じる負担を理解させることで、治療における負担軽減の重要性を認識させている。

3年次には、客観的能力審査（OSCE）を実施し、これまで培ってきた知識と技術の集大成として、実際の患者対応を想定した「医療面接、診断、治療計画、治療の実施、予後の管理」に関する能力を評価する。これにより、柔道整復師として必要な総合力の確立を図っている。

また、資格取得に向けた学力向上の取り組みとして、昨年度に引き続き、1年次から実力試験を実施し、学生一人ひとりの苦手分野を早期に把握したうえで、個別指導を行っている。2年次以降は、指導の頻度を増やし、3年次には学力別のクラス編成やチューター制度、さらには授業外での補講を実施することで、資格取得に向けた学習支援をより一層強化している。このように本学では、知識・技術・心のバランスを重視した教育を通じて、社会の期待に応えられる柔道整復師の育成を目指している。

④通信教育課程

学生募集活動は、合同説明会やオープンキャンパス・個別見学を中心とする。オンラインによる入学説明会も企画した。また、通学課程中心に作成されていた学校案内のガイドブックにも2025年度版より、通信教育課程のページを掲載した。現役高校生を中心に本学通信教育課程がより広く周知された。新入生にはオリエンテーション事前資料を配付し、オリエンテーション運営の効率化及び充実を図るとともに、在学生には、学生便覧、サブテキスト、帝短通信（機関誌）を通じて、レポート作成のポイントや注意点等に関する学修支援を更に充実させていく。現在、WEBポータルサイトより、レポート提出及び履修登録ができるようシステムを構築している。パソコン操作が苦手な学生にも対応できるよう、マニュアル配付や電話でのサポート等行う。

（2）帝京八王子中学・高等学校

知・徳・体の全人教育を、生徒の個性と発達段階に即して行い、健全な育成を期することを教育目標とする。努力をすべての礎として、教育目標達成の手段として校訓『礼儀・努力・誠実』を定め、入学した生徒が一人の例外もなく大きな成長を遂げて卒業し、更に希望進路を実現できるよう、面倒見よく愛情に裏打ちされた厳しさの中にも暖かさを持った教育・指導・助言を行う。

中学校では、スコラ手帳を活用してのPDCAの実践し、「書く力」・「時間の有効活用」・「考える力」・「自己管理の徹底」を行う時間を日々確保することで養成する。学習活動においては国語力向上のため、図書室の効果的活用により読書習慣を定着させ、読解力を向上させるための独自プログラムをさらに工夫を重ねて実践していく。英語学習では、オンライン教材を使用しての学習により4技能修得を進める。

高等学校では、本校独自の教育課程となる4コース（国際文化・言語文化・人文社会・科学探求）により、生徒の特性・関心に対しより効果的な教育を行っていく。総合的な探求の時間におけるコース紹介動画制作課題と共に、英語スピーチコンテスト、ビブリオバトル、ビジネスアイデアコンテスト等を通じて、各自の「想像力」・

「表現力」を育成、そして IT リテラシーの向上に力を入れていく。本校の教育目標を実現するため、教職員の教科指導研究、進路指導研究など、研修を積極的に参加・実施し、より深い知識や能力の向上を図る。また、近年の生徒および社会的な要請に応え、現在の教育課程を見直し、国際理解、語学力、IT リテラシーに対する教育を柱としながらも、様々な分野に対応可能な教育課程の推進を図る。

生徒を取り巻く環境の国際化への対応は、海外修学旅行、語学研修だけでなく、実用英語検定受験必須化、短期ターム留学の推進、海外短期留学生受け入れ等を進める。また ICT への対応として、実践的なプログラミングやウェブ作成等を学び、IT の活用能力向上を進める。併せて本校の国際理解教育および IT リテラシー教育における質の高さを広く周知させる広報活動に工夫改善を行い、本校の教育に適性を持つ生徒のより多くの入学を実現させる。

(3) 帝京めぐみ幼稚園

遊びを中心とした生活を通して、一人ひとりに応じた総合的な指導を行う。そのためには、幼児理解に基づいた計画的な環境の構成によって幼児が主体的に取り組み、遊びへの意欲を持てるようにする。具体的には、身近な動物への触れ合いを通して「思いやり」「優しさ」の心を育み、命の大切さを学ぶ「動物介在教育」を引き続き実施する。また、帝京短期大学食物栄養専攻学生による給食を取り入れた食育を実施する。さらに、短大キャンパスを利用した活動や自然体験、花壇や畑作業、地域の小中学生の職場体験受入や地域の母子を対象に子育て支援活動(ふれあいタイム)を実施する。このような幼稚園内外の様々な人々とののかかわりなど、社会体験、直接体験のできる場を取り入れる。

(4) 帝京にしき幼稚園

よくみる・よくきく・よくする」をモットーに、遊びを中心にしながら多様な体験を通して、個を発揮し礼儀正しく思いやりのある子どもの育成を目指す。そのために幼児理解を基盤として計画的に環境を構成し、指導内容の充実を図る。具体的には、指導計画を立案し、評価の充実を図り、幼児の発達を見通してそれぞれの時期に必要な教育内容を明らかにした計画性のある指導を行う。また、園行事や日常の活動を通して造形、身体、音楽などを表現する楽しさや感動する心を育てる。

3. 教育環境の整備

帝京短期大学では、教職員及び学生への利便性を向上する為、ID 統合を実施した。これにより学生系コンピュータ、帝短 365(Microsoft365)、無線 LAN(eduroam JP)の3環境のパスワードの統一が実現した。また学務システムの機能強化(Web ポータルサイト)を継続して実施し、教職員及び学生の利便性向上を図っている。来年度については、学内の Windows11 化を進めるとともに、学生系コンピュータ、学務システム、短大ネットワーク機器等の更改時期が近付いている為、更改に向けての検討を進める。なお学務システムについては、証明書発行機の更改にあわせて、新硬貨・新紙幣対応及び証明書の学外発行(コンビニ)について検討を進めている。

帝京八王子中学・高等学校では、体育館「蔦永館」が日々の体育の授業やクラブ活動はもちろん、さまざまな講演会、吹奏楽部、ダンス部の発表会など多目的に利用されており、保護者や一般来場者にも折に触れ公開し、教育環境のアピールを行っている。従来の施設に対しては照明設備 LED 化を検討する。

またサイネットへの参加、接続を行い、帝京短期大学とシステムの連携を図り、GIGA スクール構想対応する。また、生徒にとってより良い ICT 環境の具体化として学内ネットワーク構築を推進する。導入されている教務システムを活用し、教職員の業務効率化を行うことで、教職員はより個々の生徒へ接することができるようにするとともに、自己研修による能力向上を行っていく。

帝京めぐみ幼稚園ならびに帝京にしき幼稚園においては、各保育室の保育環境、備品、園庭の整備等、園児の健康により配慮した保育環境を整える。

4. 学生支援の充実（帝京短期大学）

学生が抱える課題を短大全体の問題として捉え、健康で安心して進路決定までつなげられる環境を整えることが、学生相談支援委員会の役割といえる。学科専攻科毎に学生の特性も異なるため、毎月開催される委員会は、情報共有と併せて学生の状況やその対応について話し合うことができる重要な機会といえる。今後も限られた時間の中で、効率的に成果につなげていくための検討の場としていきたい。

委員会では、各コースの学生情報や保健室からの報告を受け、学生の支援に必要な対策の検討を行った。特に、健康面で課題を抱える学生も多いことから、年度当初に健康状態の把握を行い、具体的な配慮事項や支援について共有を行なった。保健室の養護教諭の支援体制が充実していることで、学生が相談しやすい環境づくりを実践できている。また、より専門性の高い支援が必要な学生には、帝京平成大学臨床心理センターとの連携が図れる体制ができているが、今年度の依頼はなかった。

保健だよりを年 2 回発行し、ホームページ上でも閲覧可能としている。学生自身の興味関心をもとにテーマ設定を行っており、健康教育として役立てることができている。また、合理的配慮を必要とする学生について環境調整を行い、非常勤講師を含め、必要な協力依頼を行なった。該当の学生とは定期的に面談を実施し、支援状況の確認や見直しを行い、継続支援を実施した。

教職員研修では、渋谷区健康推進課と連携し「大学生の自殺の現状と予防対策について理解する～ゲートキーパー講座～」を実施した。特に、日常で関わる機会が多い学生のメンタルヘルスの課題について、専門家の話を聞きたいという要望も寄せられており、今後に反映していきたい。

2025 年度はこれらを踏まえ、以下の 3 点を挙げる。

① 学生の心身の健康状態の把握と適切な支援の実施

新年度の健康調査をもとに、健康上の配慮事項の把握に努める。また、毎月実施する委員会内で保健室や各コースからの学生情報をもとに、必要に応じて関係部署や授業担当者への協力要請を行う。合理的配慮についても関係部署や教職員との連携を図り、学生が正しく理解できるよう周知を図ってい

く。専門的な相談に繋げる必要がある学生については、帝京平成大学臨床心理センターと連携を図る。

② 健康教育の実施

学生自身の健康に目を向ける機会として情報発信を行う。特に、教育や医療に携わる職業を目指す学生にとっては、自身が指導・教育の立場に立つことを想定して取り組める内容を、保健だより等を通じて発信していく。

③ 教職員研修の継続的な実施

学生支援のために必要な知識や情報は常に変化しており、研修の要望事項として専門家の講演を求める声も多い。この点も踏まえ、定期的な研修の機会の維持に務める。さらに、学生の実態を把握し、身近な問題や課題について検討できる機会を設けていきたい。

2025 年度も就職対策委員会の担当教員や担任との連携のもと学生をこまめにフォローし実就職率 85%以上および就職先企業の質向上を目指す。キャリアサポートセンター職員が適宜学生と面談し当該の就職・進学進捗状況をフォローしていく。また、昨年度同様、各コースと連携し授業(演習等)内にてビジネスマナー等の実践力を身に着けるためのガイダンスを実施する。加えて、キャリアガイダンスの実施や Teams 等での情報発信、授業(社会人入門セミナー・キャリアデザイン等)担当教員との連携による就職実践力の習得、個別面談、履歴書添削、面接練習、ステップアップ講座実施等の就職指導を充実させ、就職率・実就職率の向上を図る。その一環として、2026 年度以降発行に向け就活手帳(就活ガイドブック)の復活・作成可否も検討していく。また、企業情報交流会の参加や求人依頼送付(キャリア案内添付)等により新規受け入れ企業を開拓し、短期大学生との求人マッチングに役立て、就職先企業の質の向上を目指していく。尚、卒業後の進路に関し(就職・進学等)課題感のある学生へは、教員や学生相談支援委員会、専門機関との連携を図り支援を行う。全学生が納得のいく進路選択ができるよう継続して各種支援を行っていく。

5. 学生募集計画 (帝京短期大学)

本学の学生募集計画としての入試広報活動は、「周知活動」、「選択行動の支援」、「決定行動への支援」の 3つの観点で行っている。

「周知活動」としては、本学のブランドを再構築するために web 広告、HP のリニューアルと運営、SNS 等の運営、出張授業、そして学校訪問の強化を行う。web 広告は、昨年度より大幅に閲覧数は増加し 2021 年間閲覧数の水準に戻ってきたものの、HP 内の滞在時間が短いという課題があることが判明したこともあり、それを解消すべく新しい HP を 2025 年度公開に向けて準備中である。2025 年度も継続して web 広告の出稿をすることやターゲティング広告による属性別による広告という手法により、これまで以上に効果的な web 戦略を実施する。また、オープンキャンパスへの導引、受験への導引には、高校教員からの紹介が一定数認められることから、直接的な周知活動の継続を進めていく。

「選択行動の支援」は、受験生や保護者等が本学と他の教育機関等と比較した場合に本学を選択するための支援をする活動で、学校訪問等による高校進路指導担当との連携を通じて、オープンキャンパスへの誘導、入学試験に関することや奨学金制度の拡充に関することを行う。特にオープンキャンパスにおいては、参加者の約 30%が受験者（入学者）に繋がっている傾向があり、この値は過去 10 年ほぼ同様の結果が継続されていることからオープンキャンパスへの参加者を増やすことが受験者数の増加につなげる最重要課題と認識している。2025 年度に向けては、従来型の開催に加えてイベント的な内容も準備・告知をして参加者の増加を促せるような企画を検討中である。また、新たな施策として、「スカラシップ入試制度」や「必修科目のテキスト代全額負担」などのインパクトの強い支援策を更に拡充する。

「決定行動」は、選択行動の期間を得て、出願をした時から、入試、入学手続きをするまでの支援活動で、例えば、2024 年度入試の面接内容の「口頭試問」という文言が、内容がわかりにくく、高校生の受験のハードルを高めていることが想定できることから、次年度は「志望コースに関する質問」などのやわらかく、イメージしやすい文言に変更する。

以上、3 つの観点から、2026 年度学生募集計画を策定し、行動に移していく。

6. 地域社会への貢献（帝京短期大学）

学校近隣地域の夏祭りや北沢 RUNRUNFESTA など渋谷区自体のイベント、その他のボランティア活動に参画し、地域活性化に貢献した。また、地元の幡ヶ谷六号坂商店街の店舗と連携し、学内でお弁当などの販売を実施し、地域貢献活動を通じて学内の学生の満足度向上にも貢献した。一方で学生数が減少しており、活動の幅を縮小せざるを得ない部分も出てきているため、来年度以降は参画するイベント等の精査をする必要がある。学校の近隣地域のお祭りなどのイベントや各種ボランティア活動が数多く行われており、イベントや地域ボランティア活動への参加を通じて、地域活性化に貢献していく。イベントやボランティア活動の参加者については前年度と同様に学内で広く募集し、積極的に参加を希望する学生に対して地域貢献活動を通じた様々な学びの機会を提供する。

7. 自己点検・評価（帝京短期大学）

2024 年度の自己点検・評価については、大学・短期大学基準協会の第 4 評価期間短期大学認証評価に準じて実施し、教職員が帝京短期大学の自己点検・評価 PDCA シートを用いて行った。また、各委員会も PDCA シートを用いて自己点検・評価を行った。

2025 年度も自己点検・評価において改善を必要とする課題については、各科・各部署において検討し、解決を図る。初任者に対して、本学の自己点検・評価について説明会を実施し、教職員共通の理解を深めるようにする。

2023 年度後期より授業評価アンケートは、原則全科目実施することになった。学習成果報告書の作成は、担当科目について全教員へ依頼し、作成することにより、授業改善および学生の学習成果の獲得の向上を目標とする。

8. 2025 年度予算の概要

(1) 収入

各学校・幼稚園ともに、入学者数、在学・在園児数減により前年度予算比減収を見込む。学校法人全体で学納金は前年度予算比減少の見込み。

(2) 支出

人件費については、デフレ脱却に向けた社会全体での賃金引上げ基調に加え、今後教職手当についても見直しの方向性で進んでいることもあり、漸増基調を見込んでいる。その他経費については、経費削減に努めているものの、各取引先からの値上げ要請が相次いでいることに加え、老朽化に伴う設備更新費用、学生・園児数増加に向けたホームページ改修費用等が嵩み、前年度予算比増加を見込んでいる。

(3) 事業活動収支差額

経費削減に努めるものの、収入減少を補うことができず、事業活動収支差額は学校法人全体で減少の見込みである。

以 上